

## 2015 年度聖書の集い（第 3 回）

2015 年 7 月 8 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 462 番 「飼い主わが主よ」

2、お祈り

3、聖書 ヨハネによる福音書 15 章 11 節～17 節」（新約聖書 199 ページ）

4、今日の内容

### 神さまってどんな方？「③ ひとり一人の名前を呼んでくださる方」

先ほど読んだ聖書の箇所は「互いに愛し合いなさい」という言葉がたくさんでてきました。しかし今回はそこよりも、「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」と言われたイエス様の言葉に聞いていきたいと思えます。

#### ① ひとり一人の名を呼んで

子どもたちが歌う賛美歌の中に「ひとり一人の名を呼んで」という歌があります。

ひとり一人の名を呼んで 愛してくださるイエス様  
どんなに小さなわたしでも 覚えてくださるイエス様

昔、このような物語を読んだことがあります。あるところに一人の王様がいました。彼は子どもが成長するためには、どのようなことをすればよいのか、逆にどのようなことはするべきではないのか、確かめてみたくなりました。

あるとき国から 100 人の赤ちゃんを連れてこさせ、このような実験をおこなったそうです。赤ちゃんにミルクは与えるけれども、一切声掛けをしない。「おはよう」とも「おやすみ」とも「元気」とも、名前すら呼んであげなかったそうです。

すると 100 人の赤ちゃんは、みんな死んでしまったそうです。もちろん、これは作り話です。しかし、赤ちゃんにとって、「気に掛けてもらっている」、「いつも心配してくれている」と感じることは、とても大事なことなのです。

## ② 名前を呼びかけることの意味

生まれながらに耳の聞こえない子や、長い間保育器に入っている赤ちゃんには、声掛けだけではなく、違った形のコミュニケーションの取り方もあると思います。しかしここでは、「名前を呼ぶ」、あるいは「声を掛ける」ということの意味を考えてみたいと思います。

親の立場で、子どもさんに声を掛けるのはどんな時でしょうか。朝、起きたときの「おはよう」に始まり、「いってらっしゃい」、「おかえり」、「今日、どんなことがあったの?」という日常的なもの。そして「何かうれしいことがあったの?」、「どうして泣いているの?」、「何をそんなに怒っているの?」。

これはわたしだけなのかも知れませんが、子どもが小さかった時には、それぞれの声掛けと一緒に、一回一回名前も読んでいたように思います。「～ちゃん、おはよう」、「～くん、何があったの?」というように。でもいつの間にか、名前を呼ぶのは相手の注意をこちらに向けたい時や、今パパは怒っているぞということを子どもに分からせようとするときだけになっているように思います。

## ③ 神さまは何でひとり一人の名を呼ばれるのか

しかし、神さまはわたしたちを呼ばれます。それはこういうことなのかもしれません。

たとえばあなたが砂漠を歩いていたとします。持っていた水も底を突き、見渡す限り砂しかない世界。もう心も体もボロボロになっているところに、目の前に一本のペットボトルが転がっているのに気づきます。急いで封を開け一口、「おいしい!!」。ふとボトルを見るとあなたの名前が。それは神さまがあなたのために用意してくれた、あなた専用の飲み物だったのです。

神さまはそのように、わたしたちひとり一人の名前を呼び、ひとり一人のことを気に掛けてくださる存在です。昔の聖書では「我（われ）」、「汝（なんじ）」という言葉で、この関係を言い表していました。

あなたと神さまとの関係、子どもたちとあなたとの関係、子どもたちと神さまとの関係、それはすべて一対一、大切な存在として、かけがえのない一人として大事に見守っていく関係なのです。

どうぞ、子どもたちの名前を呼んであげてください。うれしい時にも悲しい時にも、困ったときにも泣きたい時にも、いつも名前を呼んで気に掛けてくれる存在がいること、それは子どもたちにとっても、大人になったわたしたちにとっても、大きな喜びなのです。